

人と自然とこの地球、学びを社会のために

気象大学校

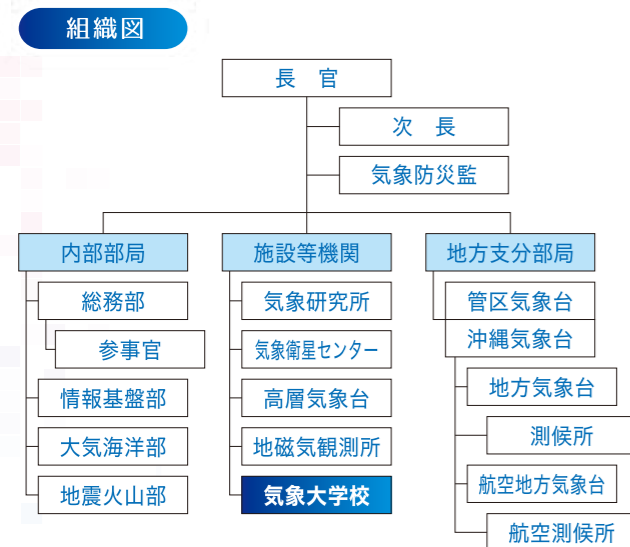
Meteorological College



気象庁

気象大学校 は気象庁の中核となる職員を養成するための気象庁の機関です。

国家公務員気象大学校学生採用試験によって採用された学生は、気象に関する専門的知識、技術などについて4年間の教育を受けたのち、気象庁本庁又は全国各地の気象台などに配属され、観測、調査、予報、研究などの気象業務に従事します。



沿革

大正 11年 (1922) 9月	中央気象台(現気象庁)附属測候技術官養成所設置
昭和 14年 (1939) 10月	中央気象台附属気象技術官養成所と改称
18年 (1943) 4月	現在地(千葉県柏市 当時柏町)に移転
31年 (1956) 7月	中央気象台の気象庁昇格に伴い、気象庁研修所に改称
34年 (1959) 4月	2年制高等部の設置
37年 (1962) 4月	気象大学校に改称、2年制大学の設置
39年 (1964) 4月	大学部が4年制となる
45年 (1970) 3月	図書館竣工
50年 (1975) 7月	寄宿舎(智明寮)竣工
62年 (1987) 6月	第一校舎竣工
63年 (1988) 8月	第二校舎(実験棟)竣工
平成 元年 (1989) 3月	体育館竣工
4年 (1992) 3月	卒業生に対し、学位授与機構より学士(理学)の学位授与



Contents

- 施設案内P4~P5
- カリキュラムP6~P7
- 授業風景P8~P9
- 学校生活P10~P11
- 学校行事・課外活動P12~P13
- 卒業後の活躍P14
- 卒業生よりP15~P18
- ご案内P19



校長挨拶

本校は、大正11年に中央気象台附属測候技術官養成所として発足しました。当時の教科内容を見ると、気象学や通信といった業務に必要な科目に加え、数学や物理学といった基礎的な学問が多く含まれています。そこには、目の前の業務をこなすだけでなく、科学を土台とした気象業務によって社会をよりよくしていくべきであり、そのためには、学術的な探求や創造的な発想ができる職員を育てる必要があるとの考えがうかがえます。

時代は進み、かつては気象を観測・記録することが中心だった気象業務は、昔とは比べ物にならないほど進化しました。気象のみならず、地震や津波、火山の観測結果と予報、警報は、いずれも私たちの暮らしに欠かせないものとなっています。そうした気象業務の進化に大きな役割を果たしてきたのが、気象大学校の卒業生たちです。気象業務に対する社会の期待がますます大きくなる中、気象大学校は、今後もやりがいと満ちた学びの場であり続けることでしょう。

自然現象の探求や自然と人間・社会との関わりに興味を持ち、深く学びたい。そして将来は、気象業務を通じて社会に貢献したい。そんな意欲に満ちた皆さんの入学を心からお待ちしております。



気象大学校長
吉田 隆



Campus

ひとつの場所で、生活しながら、集中して学ぶ

第一校舎



活気のある学びの場

3F	教室、 気象資料閲覧教室 (KASHIWA 気象台)	全国の気象台で使われるのと同じ気象資料を用いて、実践的な演習や課外活動の勉強会を行います。	
2F	教室、 情報処理室		
1F	校長室、教頭室、 事務室、講師控室、 医務室、講堂等	一般教養や基礎・専門科目の授業が行われる教室。情報端末の利用環境も整っています。	

第二校舎



他校では見られない
実験施設を兼ね備えた校舎

4F	化学実験室、 地球物理実験室	2年生「化学実験」で使用します。大気や湖水試料の化学分析を行います。	
3F	電子計算機演習室、 電子工学実験室		
2F	研修教室、 観測研修教室、 工作室		
1F	実験室 (物理・流体・ 地震観測・低温)	3年生「地球物理学実験」で使用します。大気と海洋の渦や循環の仕組みを学びます。	

図書館



専門書約 34,000 冊

体育館

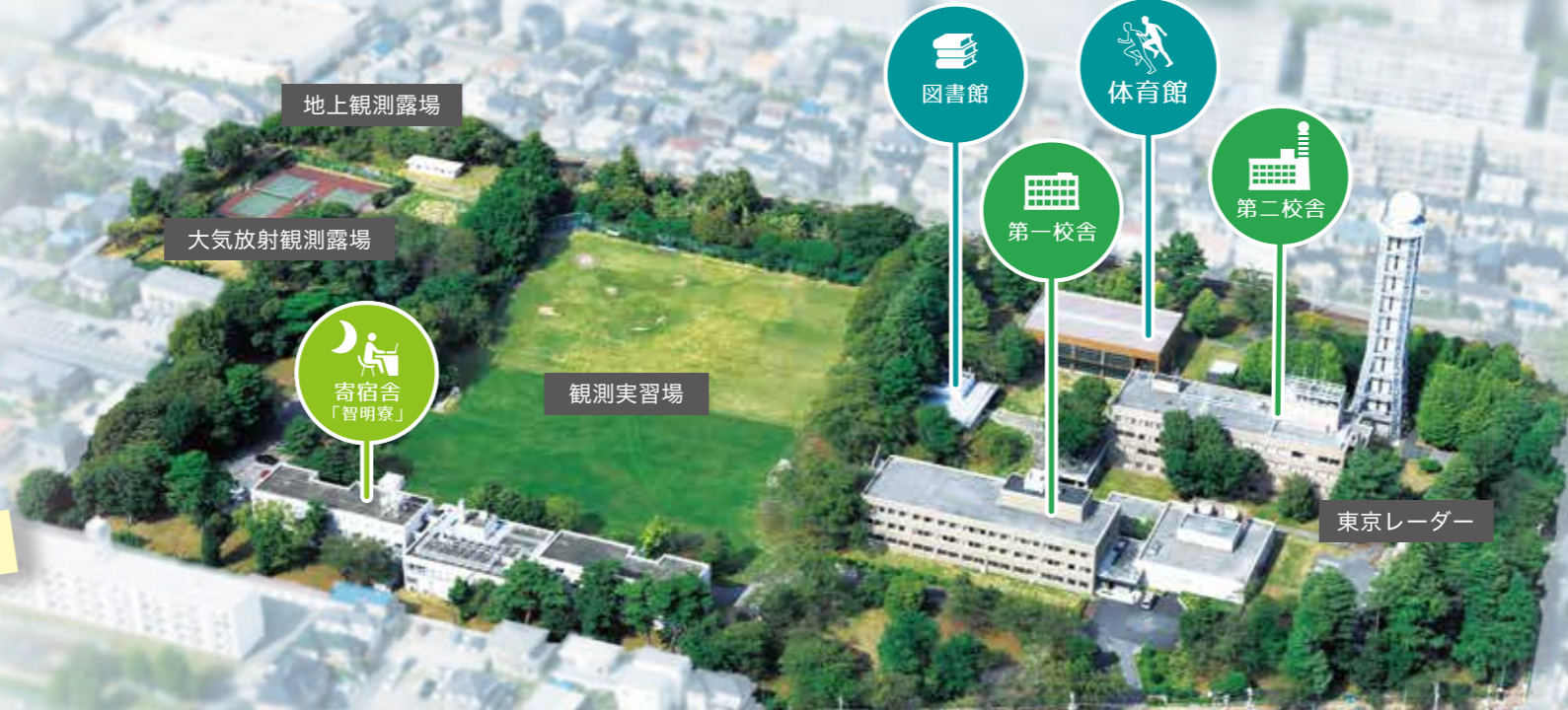


適度な運動で体調管理とリフレッシュ

寄宿舍 「智明寮」



志を同じくする仲間と
共に過ごし、共に成長する



その他の施設

- ・観測実習場
- ・地上観測露場
- ・大気放射観測露場



この環境で学ぶ価値は計り知れない

教育方針 将来の気象庁の中核職員として職務遂行に必要な知識と技術を身につける。
気象業務に関する技術開発や企画・指導に寄与しうる能力を養う。

教育課程 教育課程は教養、基礎、専門の3系列で構成されています。専門系列の気象、地震火山、地球環境等の分野において、気象業務に密接に関連した専門的な教育を行います。
※教育課程は大学設置基準に沿ったもので、卒業生には学士(理学)の学位が授与されます。

	1年	2年	3年	4年	
必修科目	教養 外国語	英語A・B	英語C	英語D	英語E
	基礎 数学、物理学 化学、情報科学	微分積分学Ⅰ・Ⅱ 線形代数 数学演習、力学、熱学Ⅰ 情報処理演習Ⅰ	物理数学A～C 振動波動論 電磁気学、流体力学 弾性体力学 物理学実験、化学実験 数理統計学 データ解析、化学通論	情報通信 数値モデル入門	
	専門 気象学 地震火山学 地球環境科学 卒業研究	気象学概論 気象基礎演習Ⅰ 地震火山学概論	気象基礎演習Ⅱ 気象力学Ⅰ 大気物理学Ⅰ・Ⅱ	気象力学Ⅱ、大気物理学Ⅲ 気象観測ネットワーク 地球物理学実験 総観気象学、メソ気象学Ⅰ 気象解析予測論Ⅰ 地震学Ⅰ、火山学 気候システムⅠ、海洋物理学	メソ気象学Ⅱ 気象解析予測論Ⅱ 気象学演習 地震学演習 卒業研究
選択科目	教養 人文科学 社会科学、外国語	科学史、哲学、論理学、法学、社会学 第二外国語(中国語、仏語)	心理学、文学、地理学、政治学、経済学、公共経営学		
	基礎 数学、物理学 化学、情報科学	物理学演習、力学演習	電子工学、情報科学実験 情報処理演習Ⅲ データ解析演習	データベース技法	
	専門 気象学 地震火山学 地球環境科学 セミナー		地球電磁気学 地球化学	データ同化、地震学Ⅱ 気候システムⅡ 数値予報論	

特修課程 気象業務への知識を深め、防災行政分野をはじめとする幅広い知識を習得します。
気象庁内外で活躍中の講師による講義、職場実習など職務の最前線で働くための実践的な授業です。

防災行政に関する科目 業務演習 観測実習など	気象業務概論 情報リテラシー 気象官署見学 地上気象観測実習	気象防災概論 気象官署見学 火山観測実習	防災行政論 気象庁本庁職場実習	気象業務論、防災社会学 コミュニケーション演習 防災気象業務演習 防災機関見学 地方気象台職場実習 数値予報実習
------------------------------	---	----------------------------	--------------------	---

教育を支える教官 ◆専任教官 26名 ◆非常勤講師 10数名

Point 60名の学生に対して26名の専任教官が授業を教えます。
万全のサポート体制が整った環境で学ぶことができます。



永田 広平 教官 担当教科 「地震学」ほか

断層運動の力学や地震に伴って生じる地震動・津波について、気象庁が行う地震・津波の監視や情報発表の技術的背景とも結びつけながら学ぶ気象大学ならではの「地震学」を教えています！



時枝 隆之 教官 担当教科 「地球化学」ほか

～気象や地震・火山だけじゃない～
温暖化に伴い地球がどう変化していくのかを正確に予測するためには、地球のことをもっと知る必要があります。気象大学では、地球を“化学”的な手法で理解する「地球化学」の講義や研究も実施しています。



北島 尚子 教官 担当教科 「気象力学」ほか

未来に何が起るかをあらかじめ知ることは、通常は困難ですが、天気は物理法則を使って予測することが可能です。物理学の応用である気象力学で、人々の生活や安全に役立つことが実感できます。



伊藤 享洋 教官 担当教科 「地球物理学実験」ほか

地球物理学実験では、校内の様々な設備を用いて大気・海洋・地震の諸現象を模した実験を行います。得られたデータを分析し、実際の現象とどのように対応しているかを考察することが重要なポイントです。

Class 気象大学校だからこそ、魅力ある授業

多彩な講義に加えて、様々な実験や演習。さらには出張による観測実習や、気象庁の天気予報の現場での実習も。

特修課程

1年 地上気象観測実習



山地や湖畔で、気圧・気温・湿度・風を携帯型機器で観測し、自ら体感して得たデータを解析します。観測の原理や機器の取り扱いの基礎を学ぶとともに、気象現象を観測と理論の両面から考察する初めての機会です。合間に、地方気象台や観測施設の見学もします。宿泊実習なので、仲間や教官との距離がぐっと縮まります。

2年 火山観測実習



火山において、熱や電磁気観測などを実施し、観測したデータを自ら解析します。また、地震計や監視カメラなどの火山観測施設を見学したり、過去の噴火の災害遺構や堆積物を観察し、実際に火山に触れることにより、教室だけでは分からない“火山”を学びます。宿泊実習なので、活火山の恩恵(温泉)も体験します。

3年 本庁職場実習



気象庁本庁舎内にある天気予報や地震などの情報を監視・発信する部署での実習は、気象大学校ならではの、普段見ている気象庁からの情報がどのように準備されているのかを実践的に学べます。正確な情報を伝えるには職員が正確な知識を持っていることが必要だと気付かされ、気象大学校での勉強の励みに繋がる貴重な機会です。

4年 地方気象台職場実習



1～3名の学生のグループごとに指定された地方気象台を訪問し、予報作業、観測機器の点検、自治体への訪問、お天気フェアなどの防災イベントに携わり、地域に密着した気象業務の最前線を体験します。気象大学校で学んだ知識を活かせ、成長を実感できるだけでなく、将来の仕事のイメージがつかめます。

1年 2年 3年 4年 セミナー

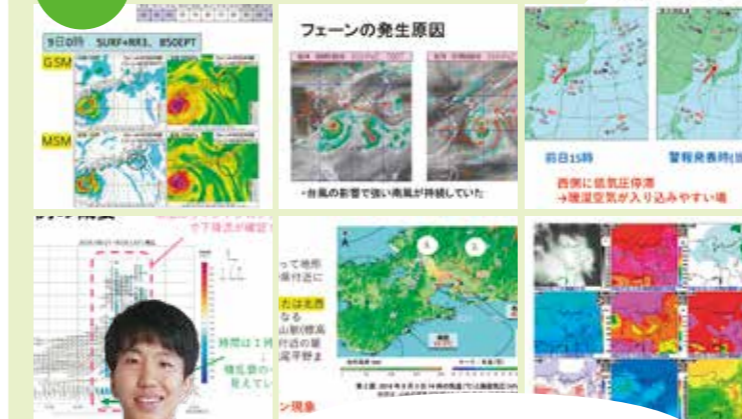
自分のペースで
学びたいことに向き合えます。
視野も広がり、理解を
深められる貴重な時間です。



興味があるテーマを自分で選び、深く学習することができます。気象庁の現場を熟知した多彩な分野の教官の中から、あなたの「もっと知りたい」をサポートする教官を選べます。60名の学生に対して、専任教官26名という贅沢。他ではない1対1の授業も実現します。4年生の卒業研究に向けた準備もできます。



4年 気象学演習



予報や解析の考え方に
高い見識が求められるのは大変ですが、
現場経験のある教官から
指導を受けられます。



気象大学校で学んだ気象分野の授業(気象力学・大気物理学・総観気象学・メソ気象学など)の集大成となる授業です。観測実習・職場実習も経験し、4年間で身に付けたすべての知識を総合的に活用して実際の現象を解析・診断します。全国各地の気象官署で行う天気予報の監視・予報や数値モデルの改善にも必要となる、現象を解釈する力をつけることができます。





少人数制で、
学生同士だけでなく
教官との距離も近い。
アットホームな学校です！

実験で理論を可視化するなど 学ぶほど興味が膨らみます

3年生になると実験の授業がたくさんあります。それが楽しい。2年生までは数学や物理の基礎科目、文系の教養などが多かったのですが、3年生になって気象学や地震学、火山学、海洋学といった専門科目が本格的に増えました。講義で学んだ数式や理論が、実験を通して目に見える現象として捉えられるというのはすごく面白いです。

高校で物理が好きになった私にとって、地球物理学を学べる気象大学校は志望校の一つ。選んだ理由として、ここに入ると就職先が決まるということも大きかったです。学生のうちから業務内容がつかめますし。

入学してみるといろんなことに興味が湧きました。教官は現場経験者が多く、天気予報の裏側を知ることができます。気象庁には様々な職務があって、私は今、航空地方気象台の勤務に憧れています。

この大学のメリットは、やはり少人数のところだと感じますね。先生との距離が近く、指導が手厚い。それに学生もみな顔見知りで仲が良く、勉強面でも趣味などの面でも気軽にサポートし合えて、寮生活だから家族のよう。そんなアットホームなところも私には魅力です。



とある一日

BeforeSchool



朝食をしっかり取るため授業開始の1時間半前には起きます。お化粧など身支度もきちんとしています。

基本的に自炊派。ランチも寮の自室に帰って手軽にできるので便利

SchoolTime

- 1限目：英語D
- 2限目：海洋物理学
- 3限目：気象観測ネットワーク

Pickup! この授業に注目!

4限目：地球物理学実験



実験の授業には気象大学校ならではの実験室や観測装置、露場などが用意されています。地球の自転を再現したり、雪の結晶を作ったり、これから習う対流の実験など興味が尽きません。



AfterSchool

室内楽のサークルに入ってバイオリンを弾いています。週一で集まって演奏し、その後はみんなでご飯。

気軽に楽しめるサークルが運動系、文化系いろいろそろっています

とある一日

BeforeSchool



早起きした日は学校の敷地内を散歩します。桜や銀杏などの緑のほか、ここは霧も出て季節の表情が豊かです。

キャンパスにあふれる自然で心身ともにリフレッシュ!

SchoolTime

Pickup! この授業に注目!

1限目：気象学演習



演習の授業では計算や計測で得たデータを図に起こし、目で見て判断できるようにします。大気の状態を視覚化して直感的に理解できるようにした2年の時の「気象基礎演習II」は印象深いです。



- 2限目：データベース技法
- 3限目：気象解析予測論II
- 4限目：卒業研究

AfterSchool

他の学生や教官と夕食に行ったり、自転車の同好会で遠出したり、ジムに行っって汗流すこともあります。



楽しみ方は人それぞれ。サークルをたくさん掛け持ちしている人も

つかみます
友と自然と
この地球



興味のある学習がすぐ始まり モチベーションが上がる

5歳ごろから1年間、アラスカで暮らしていました。空や海が好きになり、それが地球物理学に興味を持つきっかけになったと思います。小学3年生以降の自由研究は自然に関するものばかりでした。

気象大学校を本格的に目指したのは高校生の頃。自分のやりたいことを確実に仕事にできると考えたからです。入学して、これはいいなと感じたのは1年生の時から気象や地震、火山、海洋について学べる点です。関心のあることからモチベーションが上がります。

それに、僕自身が気象庁職員なので庁内のデータやシステムなどを利用して学べます。教官や先輩が身近で支えてくれますし、本校出身の教官も多いので学校行事などのアドバイスももらえます。

授業では職場実習も面白いですよ。3年生は気象庁本庁で、4年生は地方気象台を訪れます。僕が行った所は大雨の直後だったので、災害対応の現場を直接見るのができ、すごく勉強になりました。

業務としては中長期における数値予報の精度向上に貢献したい。将来的には大気や海洋の謎に迫る研究者になりたいと思っています。



Life 充実の日々を 仲間と共に

年間を通じて様々な行事があり、学生が主体的に運営する行事もあります。
日常生活は寮生活を基本とし、規則正しい生活とチームワークを身に付けます。

学校行事

入学式
前期授業開始



入学式



入学式

オープンキャンパス



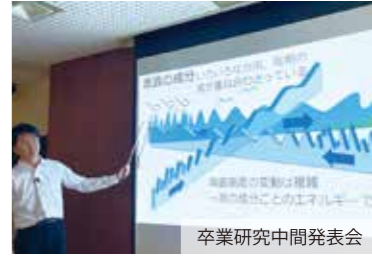
オープンキャンパス



紫雲祭

学校祭「紫雲祭」

後期末試験、卒業研究発表



卒業研究中間発表会



卒業研究ポスター発表会

4月

春季体育祭



春季体育祭

6月

1年生気象庁本庁授業

7月

1年生地上気象観測実習・官署見学
2年生火山観測実習・官署見学
3年生気象庁本庁職場実習
4年生地方気象台職場実習

8月



本庁職場実習



地方気象台実習



火山観測実習



地上気象観測実習

9月

前期末試験

10月

後期授業開始

11月

2月

3月

冬季体育祭、卒業式



卒業式

待遇

- 《 給 与 》 入学により、気象庁職員(国家公務員)として採用されます。給与(毎月約17万円)の他、年2回の期末勤勉手当(いわゆるボーナス)等が支給されます。
- 《 授 業 料 》 入学金、授業料は必要ありません。但し、教科書代、食費等は自己負担です。
- 《 休 暇 》 一般の国家公務員と同様、1年に20日の年次休暇のほか、特別休暇(夏季休暇、忌引等)があります。
- 《 保 険 》 国土交通省共済組合員として、医療・年金制度等の保障があります。
- 《 学 位 》 卒業時には独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学士(理学)の学位が授与されます。
- 《 そ の 他 》 寄宿舍を用意しています。(寄宿舍料は無料です)

課外活動

野球部、サッカー部、テニス部、
陸上部、天気の子、軽音楽部、室内楽同好会
リコーダーアンサンブル部、星をみる会等



室内楽同好会

寮生活

- 《 場 所 》 校舎から徒歩1分。気象大学の敷地内にあります。
- 《 部 屋 》 各部屋には冷暖房機、ベッド、ロッカー等が備え付けられています。
- 《 寮内設備 》 自炊施設、浴室、トイレ、洗濯乾燥機室、談話室等があります。
- 《 女性用施設 》 独立したエリアに部屋、浴室、トイレ、洗濯室があります。

Future

学びを活かし、職務の最前線に

卒業後の活躍

卒業生は、気象庁本庁をはじめ全国各地の官署に配属されます。様々な分野でキャリアを積んだ後は、気象庁本庁等の幹部職員として活躍することが期待されています。

官署配置図



主な勤務地

気象大学校で4年間学んだ後は、いよいよ気象庁の現場での勤務です。気象庁の勤務先は、北は稚内から南の石垣島まで全ての都道府県にあります。そのため、多くの卒業生は各地方气象台等に配属され、気象、地震・火山、海洋等の観測、予報、防災、調査、技術開発等を行います。その後、本庁、管区气象台等で企画立案、調査研究など、あるいは各省庁や自治体との協議・調整業務を行いながら、ステップアップしていきます。また、世界気象機関(WMO)、南極観測隊、他省庁や自治体に出向して活躍している卒業生もいます。なお、卒業後に人事院の制度等を利用することにより、海外への留学の道も開かれています。



卒業生の活躍

予報課 気象監視・警報センター
現業班 一般職員

鳥生 実歩

Toryu Miho

気象大学校での生活は
一生の財産となります。
自然科学に興味のある方、
ぜひ体験してみてください！



業務に生きる大学での学び

現在は本庁で天気予報業務に従事しています。地方自治体の防災担当者から気象情報の見直しについて問い合わせを受ける時は水戸地方气象台での経験を生かした丁寧な解説を心掛けており、「そういうことが聞きたかった」と言って頂けるとやりがいも感じます。働き始めて4年目、今も大学で学んだ気象力学や総観気象学の知識をフル活用しています。それほど業務に直結した授業を受けられるのが大きな魅力。気象や地震、海洋等スペシャリスト育成のための幅広い授業が揃っていますから、在学中は教育課程を満遍なく学び、その中から得意なものを1つつくってほしいです。「この分野だったら自分に任せてください」と言えるものを1つ持つと、将来職場でとても重宝されると思います。

仕事とプライベートのバランスが取りやすく、若手から管理職まで女性も活躍していますので、自然科学や物理が好きな女子高生の皆さん、どうぞ安心して来てください。



貴重な気づきを得た初任地

2020年に気象大学校を卒業し、最初の配属先は水戸地方气象台の防災グループでした。幅広い業務の中で今に繋がる力になったのは、茨城県の市町村長と气象台長との懇談会への随行です。防災情報に対する様々な意見や要望を出して頂くのですが、土砂崩れや洪水など懸念する災害が地域ごとに異なるほか、雹のような農作物の育成・収穫を左右する気象災害への悩みといった自治体の生の声を聞くことができ、自分たちが求められていることを直に知る機会になりました。

経歴

令和 4.4 気象庁 大気海洋部 予報課 気象監視・警報センター 現業班 一般職員
令和 2.4 水戸地方气象台 防災情報係 一般職員

卒業生の活躍

地震火山技術・調査課
緊急地震速報技術開発係 係長

野口 恵司

Noguchi Keishi



自然災害から命を守るため
一緒に働きませんか?
お待ちしております。

卒業生の活躍

企画課
航空気象管理室 調査官

小松 奈央子

Komatsu Naoko



気象大学校での経験は
これからのあなたの人生を
豊かにしてくれます。



緊急地震速報の業務で貢献

在学中の地震学の授業が面白くて将来の目標が地震業務に定まりました。4歳で阪神淡路大震災を経験した影響もあるのか、自分の興味のあることが人のためにもなればという想いもありました。卒業後の2年間は熊本地方気象台で働き、本庁へ転勤したあと津波関連のWEBアプリ開発業務を経て、今は念願だった緊急地震速報の精度向上のための調査研究をしています。令和5年9月に運用開始した緊急地震速報の技術改善（震源推定手法の改良による揺れの過大予測の低減）は自分でも誇れる仕事です。技術開発は取り組んでいて面白いですし、それが人のためになると思えることは仕事のモチベーションにもなります。若手の職員も自由にアイデアを提案し、仲間や上司の助言を得ながら実現させることができます。時にそれが社会実装されることもあり、ボトムアップで良いものを作れるのはこの職場の魅力だと思います。



勉強に明け暮れた大学生活

小学生の頃、台風がきっかけで天気に興味を持ちました。先のことわかる天気の面白さに目覚め、気象大学校へ進学。待ち受けていたのはみっちり勉強に打ち込む毎日で、質の高い授業も多く相当鍛えられました。一方で同期や先輩とのつながりも強くなり、今の仕事にも生きています。忘れ難いのは100キロを丸一日かけて歩くハイキング。50キロ以降は1年生と上級生がペアでゴールを目指す習わしで、夜通し歩きながら勉強や学校生活について先輩と話しました。

経歴

- 令和 4. 4 気象庁 地震火山部 地震火山技術・調査課 緊急地震速報技術開発係 係長
- 令和 2.10 気象庁 地震火山部 地震火山技術・調査課 緊急地震速報技術開発係 技術主任
- 令和 2. 4 気象庁 地震火山部 地震津波監視課 緊急地震速報技術開発係 技術主任
- 平成 30. 4 気象庁 地震火山部 地震津波監視課 緊急地震速報技術開発係 一般職員



様々な挑戦ができる国際業務

卒業後は福岡空港や成田空港の気象台等で航空気象予報情報の作成・提供業務に従事。そして航空気象での国際業務を機に一般気象・航空気象予報に関する他国への技術指導等の国際協力、世界気象機関（WMO）主催の国際会議への出席など国際業務を担当してきました。フィリピンやタイなど東南アジア諸国での技術指導では大学で学んだ気象学や物理の知識が大いに役立ちます。また、アメリカの気象局へ半年間派遣されたのも貴重な経験です。先進国、途上国を問わず、他国の気象局も私たちと同じような業務を行っているため共通項も多く、議論を通じて発展的な話ができて面白い。国際業務に伴う大変さがある一方でやりがいもあり、自分はこの仕事が好きだなと思える瞬間に溢れています。

キャリアアップを支える制度も揃い、私も育児休暇や大学院で学ぶ制度を利用しました。職場はアットホームな雰囲気。仕事を進める上で建設的な話ができて働きやすい環境です。



自分の色を見出せた4年間

小学生の時に読んだ科学雑誌の影響で宇宙に興味を持ち、次第に気象へと関心を広げた私は中学3年で気象大学校のことを知りました。気象を専門に学べるユニークな大学ですから、自分の色をつけられるという意味でも面白そうだと進学を志望しました。ここでの4年間は少人数制ゆえに仲間意識が芽生え、周囲の勉強に奮闘する姿に私も頑張ろうと刺激を受ける日々。そして卒業後に実感したのは将来的な職場での人脈を学生時代から築けるというメリットでした。

経歴

- 令和 4. 4 人事院の制度を活用し、国内大学院にて研究中
- 令和 3. 3 気象庁 総務部 企画課 国際航空気象企画調整官
- 平成 31. 4 気象庁 総務部 企画課 国際室 外事官
- 平成 28. 4 気象庁 予報部 予報課 航空予報室 調査官

卒業生の活躍

福岡管区気象台長

中本 能久

Nakamoto Yoshihisa

気象大学校を
人生の選択肢の
一つに!



人との出会いが大きな財産に

多種多様な仕事と働きやすい職場環境に恵まれ、長年気象庁で働いています。この道へ進んだのは浪人時代に友人に誘われて気象大学校を受験したのがきっかけ。当初は大学受験の腕試し的感覚でしたが、親に経済的負担をかけない利点もあり進学しました。気象大学校の魅力は色々ですが、中でも最たるものは学生同士や先生との関係における風通しの良さ。私が勉強以上に大切にしたのは人間関係でしたので、卒業研究の担当教官や野球部の仲間との出会いは財産です。

経歴

- 令和 4. 4 福岡管区気象台 台長
- 令和 3. 4 気象庁 大気海洋部 業務課 課長
- 令和 2. 4 気象庁 予報部 予報課 課長
- 平成 31. 4 気象庁 観測部 観測課 課長

選択肢が豊かな気象庁の仕事

高校生の皆さんは気象大学校という専門的に理学を学び、卒業後は気象庁で研究者や技術開発者として働くイメージを思い描くかと思いますが、実際の仕事は多岐にわたっています。私が担当してきた業務だけでも気象観測・予報、通信システム構築、法案検討、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）等の国際業務、広報・報道対応など、専門的な仕事から応用性のある仕事まで様々です。そして災害対応のような社会貢献の仕事も多い。ですから気象庁の仕事は、幅広い選択肢があることをぜひ知ってもらいたいです。気象や地震について学びたい人は気象大学校を受験してほしいですし、将来の進路を検討中の人にも人生の選択肢を幅広く持つという意味で受けてみることをお勧めします。

職場環境はとても良いです。若い世代も多く、議論が必要とされる場では年齢や役職に関係なく自由に意見が飛び交う。そういう働きやすい風土が気象庁にはあると思います。



Join us! ご案内

8月には、気象大学校に興味を持っている学生さんやそのご家族に、気象大学校を紹介するオープンキャンパスを実施しています。
11月には紫雲祭という学校祭も行っています。

☑ オープンキャンパス

8月上旬

気象大学校を志望する生徒やご家族の方を対象に模擬授業・実験体験・個別相談・寮見学などを行います。
定員制で予約が必要です。気象大学校ホームページからお申し込みください。



模擬授業

☑ 学校祭「紫雲祭」

11月頃

クラブ活動の紹介、実験、模擬店などを行います。
予約の必要はありません。
誰でも参加できますので、お気軽にお越しください。



入学(採用)試験について

気象大学校に入学するためには、人事院が行う気象大学校学生採用試験(高等学校卒業程度の入学試験)に合格し、採用される必要があります。

日程： 8月頃 受験申込の受付 10月末頃 一次試験 12月中旬頃 二次試験

試験科目や今年度の日程の詳細については、以下のホームページで、ご確認ください。

<https://www.mc-jma.go.jp/mcjma/educational/adopt.htm>



気象大学校ホームページにて受験体験記を掲載しています
<https://www.mc-jma.go.jp/mcjma/educational/voice.htm>



アクセス

気象大学校

〒277-0852 千葉県柏市旭町 7-4-81



JR 常磐線・東武アーバンパークライン「柏駅」下車
徒歩約 15分 (1.2km)



- 柏駅西口バス乗り場
- (1 番のりば/柏 06・16 系統)
免許センター・流山駅東口行
「気象大学前」停留所下車(正門前)
 - (3 番のりば/柏 01 系統)
豊四季台団地循環
「住宅入口」停留所下車(徒歩約 5 分)



最新情報はホームページをご覧ください▶
<https://www.mc-jma.go.jp>





気象大学校

〒277-0852

千葉県柏市旭町 7-4-81

TEL 04-7144-7185(代)

URL <https://www.mc-jma.go.jp>



気象庁

〒105-8431

東京都港区虎ノ門 3-6-9

TEL 03-6758-3900(代)

URL <https://www.jma.go.jp>



はれるん誕生 20周年



2024.2月発行

気象庁マスコットキャラクター
はれるん